

刊夕 日七十月一

常警每日新聞

定價 一部五元 二部十元 三部十五元
 廣告費 五部十二元 十部二十五元 二十部五十元
 日曜祭日の翌日休刊
 發行所 常警每日新聞社
 印刷所 常警每日新聞社

滿洲の思ひ出 四

安倍 季雄

私は滿洲で支那町を散歩する時、朝鮮と鮮人街を散歩する時、よく支那人や鮮人の子供たちの頭をなでたりやりました。撫でられた子供はきつと私をふりあふいで、安心したやうにニコニコする。實に可愛い。失天である支那人雜貨店の店先まで、三つばかりの男の子が遊んで居た。いかにも無邪氣で可愛いので、ツカ／＼よつて日本語で「こんにちは!!」と挨拶すると、子供もニコニコ笑つて首をチヨコンとさげました。無論「こんにちは」なんて日本語がわかる筈はなののですが、敵意のない私の顔を見し、思はずおあいそをしたは違ひない。すると奥から、父親らしい支那人が出て来て、同ずやうに笑ひながら丁寧におじぎをいたしました。私はこれだと思ひました。子供を愛する親心には、洋の東西もなければ日支の差別もない。これは全く共通であります。その共通の觀念を利用して、本當の日支親善、内鮮融和の實をあげる道はないものだらうか。

鮮語で鮮人と語る日本人に殆んど會はなかつた鮮人にわからうがわかるまいが、日本語で語る。日常の會話ばかりでない、内地から行く行佛の坊さんや基督教の牧師さんの説教も日本語だ。日本語を普及させる意味に於いて日常の會話はそれでも結構だが、せめて宗教家が鮮人に説教する

○明日の献立
 朝食 味噌汁、馬鈴薯小付、煮豆
 昼食 菜とう汁、もみぢり小付、葉とうがらし佃煮
 晩食 ハンパニエビ、牛肉と野菜煮込、酢の物、白菜二杯酢

時だけでも朝鮮語で話してもらひたいと思ふ。今日、朝鮮では基督教が相當の勢力を持つて居る。その基督教は、ことごとくアメリカ人によつて傳へられたものである。アメリカ人によりて傳へられたキリスト教がともすれば日本の朝鮮統治の邪魔になるのはあたりまへだ。どうしてアメリカ人はそれほど鮮人の間に勢力を得たかといふと、原因はいろいろあるが、第一は彼等の説教が朝鮮語であるからだと思ふ。外國語で話されるのと、母國語で話されるのでは、聴衆の心に響き方が違ふ。私は童話家で

ある立場から内鮮融和の第一方策として將來日本の傳統的精神を加味した優秀なる童話を、朝鮮語で話す童話家を朝鮮におくりたいと思ひました。

その際、ハルビンの小學校長のお話に支那人が日本の商人から物を買はないのは忍ぶべしとしても、日本人が日本商人から物を買はずに支那人からばかり買ふ傾向であります。なせさうするかといふと、同じ品物か、日本商人より二三割高いからです。その上、電話をかけても、支那人だと書でも、夜でも、十錢二十錢の品物を自轉車で直ぐ届けてくれるのが、日本商人は今小僧が居ませんからだの、今夜は遅いから明後にして下さいのと、中々ちよつとやそつとでは註文品を届けてくれない。それといふのも、日本人は店を持つて、必ず店員や小僧をつかづて、自分は主人顔、旦那顔をして收まりかへり、あごで人を使はうとする悪い癖があるからで、その小僧が飯を食ふ、着物を着る、これは當り前ですが、その衣食の値段が支那人に比べると數段に高い。その高い生活費まで商品にかけられるだから値段が高くなる筈です。

玉屋洋品店
 平町田町通電話六五六番

警城セメント會社特約店

大倉屋商店

警城平町五丁目 電話九、九九番

- 良品廉賣に勝る商略なし
- 確實敏捷は人の生命なり

はねがき

桑原柔道整骨院
 番公園下電話六七四

市原醫院

平町田町(電一一四番)

内科 小兒科 市原卯太郎
 外科 梅毒・淋病 市原三三男

■入院隨時

お年始のお客様に

魚清のサービス

さしみと御飯 吸物おしんこ付

- 二十五錢
- 三品 五十せん
- 五品 八十せん

平二警察署裏通り

魚清食堂

電話六三三

是非!

御融通には御用命下さい
 萬事便利な御相談に應じます

三井質店

平。四電六〇六番

吸入用酸素純度 99%

モノサシ 体温計
 マス 寒暖計
 ハカリ 器量計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

大判小ばん

畑の中から續々

一躍十萬圓の成金

先祖が埋めたか?

磐中五年生

満鐵で採用

今様花咲翁さん

石城郡錦村大字仲田農鳴健藏さんは十六日午後四時頃裏の梨畑を手中中鎌先にガチャリと當つた古い大きな甕の中から山吹色の大判小判が目も眩むばかり續々と現れ出たが其數實に九千九百九十五枚！驚いて目方を掛けると何んと十五貫餘！一躍十萬圓以上の金持ちとなつた譯で早速植田署に届出たが昔先祖が埋めて置いたものであらしく目下調査中

郡内全町村

産業組合の連鎖

五月頃迄には實現

石城産業組合管内の郡下各町村産業組合設立数は昨年八月頃迄に二十五組合であつたが郡部會は昨年下半年より組合の創立に全力を盡した結果一月現在では三十二組合に増加し未設置町村は上遠野、田人、永戸兩組合村の僅か三村となりその

うち上遠野村は目下組合員募集中にあり田人永戸兩組合村も組合創立の氣運に向いて居るから五月頃までには郡下卅四ヶ町村全部に産業組合の連鎖が實現するに至つた

内郷局長叙勳 内郷郵便局長長谷川憲次郎氏は

永年勤続の功に依り今回勳七等に叙せられた

組合理事再選 去る十二日に開かれた夏井信用組合及び十五日の神谷村組合

上下小川の分離

上小川村から縣へ陳情

小川組合村の上小川代表者は去る十六日縣地方課に出頭し上下小川の分離を許可され度いと陳情したがその理由は今回の村議補欠改選で上小川村が惨敗し村長、助役、村議全部を下小川に占められて納まらずこの陳情に出たものであると

団体旅行

平驛で募集

平驛では來月末成田山、川崎大師初詣團體を初め更に二月には嚴島、伊勢参り三月には關西、中國、四國、九州の神詣等いづれも定員四百名宛を募集中であるが各團體の内容左の如くである

△成田山、川崎大師、宗吾靈參詣、一月卅一日出發

合の各總會は役員改選の結果いづれも理事幹事が再選と決定

經濟更生

計畫書審査

郡内昭和十年度經濟更生計畫書を縣經濟課に提出した左記四ヶ村に對して廿五日縣より更生課の成島技師が來郡平町團體事務所にて計畫書を審査することになつた

青酸加里を呑み

病弱の青年自殺

就職口を探しあぐんで

病氣を歎く遺書

平町南町大谷酒店二階に間借してゐた秋田縣由利郡本莊町生佐々木房次郎(三〇)君は十六日朝居室で青酸加里を嚥下自殺したを十一時頃家人が発見半臂に届けたが同人は舊曆廿九日來町就職口を探してゐたが適當の職業なく持病の肺結核が悪化した來たのを悲觀したもので簡單な遺書に病氣を呪ふ文意が認めてあつた

信用組合總會

小川村信用組合總會は來る十九日、磐崎村組合は廿七日夫々兩村小學校に開き役員改選その他を附議する由

第二劍道大會

平第三小學校劍道部は去る十三日から寒稽古を初め來る廿一日終了する豫定であるが當日は納會を開き翌廿一日には部員百五十名の劍道大會を催すと

平中央青果市況

△青物部

人参 一貫目 〇.三〇、七〇
牛蒡 同 〇.〇〇、一.六〇
甘藷 同 〇.三〇、〇.〇〇
ホーレン草 一把 〇.〇〇、〇.〇〇
干大根 百本 〇.二〇、〇.五

新町二二 其他二八五

平町人事

回出生

△鎌田町五三當時東京市瀧野川區西ヶ原町五三七菅野勇氏長女千代子さん
△舊城跡三〇築館正氏六男良さん
△田町四五大河原貞丸氏次女元子さん



靈効散 胃腸藥

大層能く効きます。外に三年五年と患ふ慢性胃腸病の全快した人も澤山あります。胃腸病、心臓病、腦、痔等も治ります。御望みの方には御試用として見本藥を阿康藥局で差上げます。御遠慮なく御來局下さい。他店では見本藥差上げません。是非左記へお出下さい。

平町古鍛冶町縣社ノ下 阿康藥局

電話 四四番 振替口座東京三〇六番

御子様方には小兒靈効散があります

産科 院長 木村寅次郎

外科 醫學博士 内木宗八

藥局 藥劑士 大岩俊雄

平町新川町十九

木村病院

病室完備 入院隨意 電話一六四番

此の世の地獄 死の恐怖から 辛ふじて脱走

監獄部屋の實相

地方人への大きな示唆

北海道の奥地伊勢の骸骨躍る死の監獄刑屋から嚴寒を突いて脱走を企て郷里の妻子を慕ふて遙々愛知縣まで徒歩旅行の男が長い辛苦と飢餓の末十七日午前中平町役場に救助方を哀願し來たり、細々と物語る戦慄の監獄部屋の實相は聴くものゝ氣持を暗然とさせ無智な地方の人心に深い示唆を與へずには置かない。

深夜の闇を突く

赤腰巻一本

鬼監督の眼を

漸く免れて生還

平町役場に十七日午前中救助方を願ひ出た一人のみすぼらしい男があつたが、右は愛知縣幡豆郡佐久島生れの土工筒井新八(三三)で妻子を抱へて名古屋市内に建具職を営むでゐた處不況のため、市土木工事で稼ぎ辛ふじて一家の糊口をつないでゐるうち或る日から北海道に行けば一日三圓か四圓になると聽かされ昨年三月、六ヶ月の契約で北海道旭川の奥地甘里許りの地名不詳の土地に土工として渡北したが八月になつても歸國が出来ず約束の金を一

一本にされて大部屋に六十人も七十人も一本の太木を枕に寝せられてゐるので萬一逃げ出して見つかれば殺されるのが判つてゐたが何うしても故郷が心配で紅腰巻の儘で脱走、山に三日許り潜伏して夜になると歩行し續け十二月中室蘭に出て漁場を稼ぎ乍ら漸く逃げ終せたものであると

二百圓持逃げ 下谷區龍泉寺町三六三居住石川縣金澤市生れ外喜和長女大江忠子(三三)は昨年十一月十日午前七時頃小切手三百圓並に現金卅圓を持ち無断家出行方を晦ましたが最近平地方の良家に女中働き中の風聞あり捜査して欲しいと平署へ十七日願ひ出た

明日のラジオ

十八日

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 和洋合奏 若葉和洋合奏
- 後六、二五 農村經營の成功談「漁業組合による村の更生」坂本芳藏 熊本の夕青年と文學
- 後七、三〇 講演「國文學」

天 今晩は晴明日も同様

カフエーで 昏々と眠る 懷中に睡眠劑 覺悟の自殺か

平町田町カフエー平會館に十六日午後十二時頃馴染の同町六間門居住某官衙雇神谷清一(三三)假名が泥酔して來て飲酒中「眠くなつた」とチープルにもたれて昏々と眠に入つたので變に思つた

結婚に反對され 女給と情死 親戚を訪ねて 夜更けに苦悶

十六日午後飯野村字中山農小野齊方を訪れた同人姪平町南町カフエー花月方女給小野静枝(二九)神谷村大字下神谷居住平町搔樋小路色川めた

明日の部

ス 氣象通報 番組豫告

- 前七、三〇 朝の修養「聖徳太子の御生涯」七 高島米峰
- 前九、〇〇 衛生メモ
- 前一一、〇〇 家庭講座「鐵道常識」小倉一郎
- 後一、〇五 モダン小咄
- 後二、〇〇 笑ひの王國
- 後二、〇〇 家庭講座「急性肺炎の豫防と看護の仕事」今村荒男
- 後三、三〇 大相撲實況：兩國國技館中繼

ス 氣象通報 番組豫告

- 後六、〇〇 子供の時間 音樂物語「駱駝の背に乗りて」大阪放送童話研究會
- 後六、二五 農家の時間 「部落協同と農村更生」佐藤專
- 後七、三〇 獨唱 笠松重三郎
- 後七、五〇 ビアノと管絃樂 宮内鎮代子新交響樂團
- 後八、二五 俚諺 鹿兒島民話會鹿兒島
- 後八、三五 長唄「鏡獅子」杵屋六左衛門他
- 後九、〇〇 時事解説

棍棒で窓硝子を 破壊する男 釋放に味を占め

常習的に各處を荒す

平町業紹介所報告

- △女中 四十才迄 月給六圓
- △女中 卅才迄 月給五圓
- △飲食店雜役 廿才迄 月給五圓
- △女工 廿才迄 月給七圓
- △古物商店員 廿才迄 月給五圓
- △配達員 十七才迄 月給四圓
- △飲食店雜役 廿才迄 月給五圓
- △染洗張見習 十八才迄 小遣仕着
- △回 職を求める方 集金人 四十六才 高卒

結婚に反對され 女給と情死 親戚を訪ねて 夜更けに苦悶

十六日午後飯野村字中山農小野齊方を訪れた同人姪平町南町カフエー花月方女給小野静枝(二九)神谷村大字下神谷居住平町搔樋小路色川めた

結婚に反對され 女給と情死 親戚を訪ねて 夜更けに苦悶

十六日午後飯野村字中山農小野齊方を訪れた同人姪平町南町カフエー花月方女給小野静枝(二九)神谷村大字下神谷居住平町搔樋小路色川めた



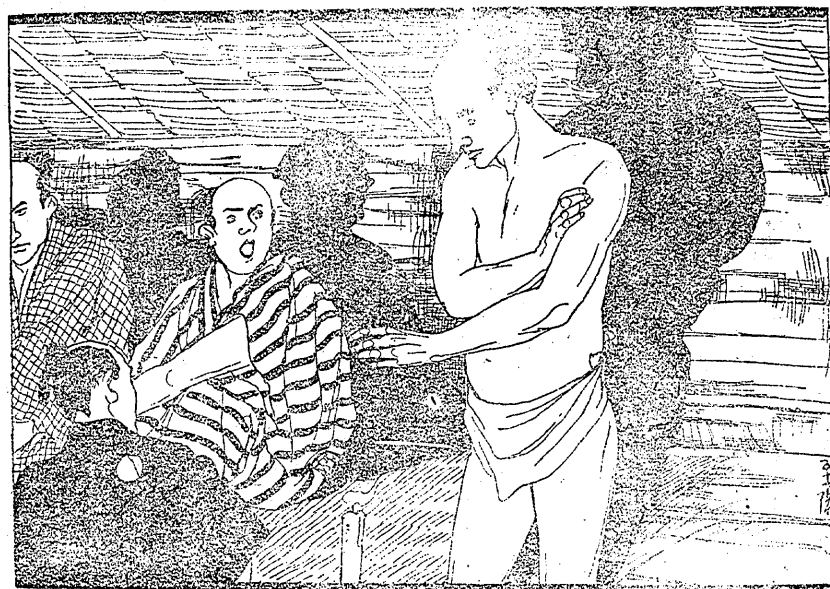
繞る解瓦解の設人々
悟道軒圓玉 (作)
尾至陽 (畫)

二六 高瀬船の賭場

馬鹿の長六は新大橋の中
洲を前にした明神丸といふ
高瀬船の胴の間に來ると、
新しい薄縁を敷いて百目掛
けの蠟燭をとぼし、十五六
人集まつて勝負々々と博奕
をしてゐる、今は頼とこの
やうな事はないが、まだ江
戸時代には船で賭場を開帳
したものです、船頭の藤兵
衛が貨元で、あつまつてゐ
るは船乗または深川の無頼
漢、長六は裸で隅の方にす
はりその勝負を見てゐる、
折しも雨はますますはげし
く降り注ぎ、雷がごう／＼
鳴る。

長「まだ雨は止まぬえな、
それに雷の太鼓を叩いて雲
の中を馳けて歩いてゐるだ
もし藤兵衛兵衛親方わしも
この仲間に入れてくだせえ
え」といつた時に、藤兵衛
が鼻の先でフ、ンと笑つた
が

藤「よせ／＼、お主などが
手を出すやうなバクチぢや
ねえよ、お主などは百か二
百の錢を捨て、それで遊
ぶことの出来る小さなバク
チをしろ、今夜は銀賭り
だ」
長「何んだの銀賭りとは」



藤「お主はバクチをしなが
ら銀賭りを知らねえか、よ
く覚えて置け、銀賭りとは金
で勝負をする事だ、錢を賭
らせることは出来ねえ」
長「成る程、金を勝負をす

るから銀賭り、もれも分
を付けて勝負をするぞ」
藤「こいつは奇態だ、ヤイ
馬鹿長銀ばかりで勝負をする
ほどの軍用金があるか」
長「安く扱ふやうな、俺だと
たまには金を有つてゐる
ことがあるださア金を見せ

るからおどろくな、吃驚す
るなよ、つかへる金だぞ」
藤「つかへねえ金が何にな
る」
長「黙つてゐろ、今金を見
せてやる」
木綿麻の葉の龜の子腹掛の
かくしからズル／＼と引き
出したは色の褪せた樽黄木
綿の財布、手を差込んで摺
み出したは一步銀に二分金
長「どうだ親方、おどろい
たか、これだけあれば勝負
することも出来るだらう」
藤「こいつはいよいよ、不
思議だ、今年世の中の景氣

くから野郎共覺悟しろ」
藤「大きなことを云ふな」
長「そこへ入ってくれ」
△「氣味の悪い奴が來たぜ
金を見てはゲラ／＼笑つて
ゐるが」
長「仲間に入れて、だせえ
おつと待つた、今ほるぞ」
といつたがトバクの器械を
扱ふは十五六になる小僧、
これも裸で糊のおちぬ晒
木綿の下帯をしめ、半紙を
四つに疊んでその下帯には
さみ、水浸黄の手拭で向ふ
鉢巻をして威勢のいい、扮装
小「オイ長六さん、何つら
へゐるんだ、早くしてお
れ、お客様は待つてゐるん
だ」

長「待つた／＼大事な金を
はるんだ、さう容易くはハ
れねえ、このバクチは丁半
だな俺の名前が長六にはつ
た方かい、かのそれでは丁
だあ、待つて／＼物事は思つ
た通りにいかねえと聞いて
ゐる、こいつは半がいの
かなそれ半だ、ヤイ待つ
て／＼俺の名は長六だこれ
は丁がいのかな」
小「オイ何とか片付ておく
れお客様はデリ／＼してゐ
らア」
長「待てよ、この一番はハ
らずに見てゐるだ」
小「馬鹿だこの人は、勝
負」

か宜いな、馬鹿長が金を持
つてゐるやうでは」
長「馬鹿にしなさんな、金
は世界の融通だ、俺のやう
な者でもこんな儲ける事
もある、たんとは無えが三
兩あるぞ、今夜は俺が一人
でこの賭場の金を凌つて行

舊十二月二十日ヨリ二十八日マデ
新 一月十四日ヨリ二十二日マデ

舊年末特價大賣出し

産地破格大量品仕入
本年掉尾の大奉仕!!

品名	価格
ニゴ	八十錢
金紗小紋	七圓
全伴天地	五十五錢
金波羽織地	六圓八十錢
着尺モス	二圓五十錢
村山人島	五圓
白地手拭	四十八錢
銘仙布圍地	二圓八十錢
白新毛氈	五十錢
銘仙	二圓八十錢
◎外ニ京呉服	大特價

新型東コート 新柄シヨール陳列
白キヤラコ足袋(一足)金十錢
贈るに便利 商品券 受けて重寶な……

三井呉服店

電話 三八・二八四番

かまぼこ製造

お徳出

お惣菜用 さつま揚 吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

美味! 芳醇!